

製品名: ケモカイン受容体 D6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08753**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CCBP2
別名	CCBP2; CCR10; CMKBR9; Chemokine-binding protein 2; C-C chemokine receptor D6; Chemokine receptor CCR-10; Chemokine receptor CCR-9; Chemokine-binding protein D6
遺伝子 ID	1238.0
SwissProt ID	O00590
免疫原	抗血清はヒト CCBP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 335-384

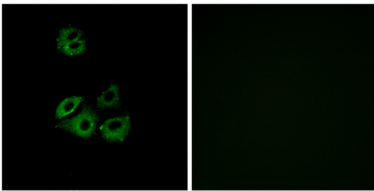
背景

この遺伝子は β ケモカイン受容体をコードしており、これは G タンパク質共役受容体に類似した 7 つの膜貫通型タンパク質であると

予測されています。ケモカインとその受容体を介したシグナル伝達は、炎症部位へのエフェクター免疫細胞のリクルートメントに不可欠です。この遺伝子は、さまざまな組織および造血細胞で発現しています。リンパ管内皮細胞におけるこの受容体の発現と血管腫瘍における過剰発現は、ケモカイン駆動性の白血球再循環における機能、および血管腫瘍の発生と増殖に対するケモカインの影響の可能性を示唆しています。この受容体は β ケモカインファミリーメンバーの大部分に結合するようですが、その具体的な機能は不明です。この遺伝子は、ケモカイン受容体遺伝子のクラスターを含む領域である染色体 3p21.3 にマッピングされています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]機能: SCYA2/MCP-1、SCY3/MIP-1- α 、SCYA5/RANTES、SCYA7/MCP-3 を含む C-C 型ケモカインの受容体。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。組織特異性: 主に胎盤および胎児肝臓で発現し、肺およびリンパ節にもごく低レベルで存在する。真皮およびリンパ節の輸入リンパ管の内層をなす内皮細胞に認められる。また、リンパ節の被膜下洞および髄質洞、扁桃リンパ洞、小腸、大腸、虫垂の粘膜および粘膜下層のリンパ管にも認められる。一部の悪性血管腫瘍にも認められる。

研究分野

画像データ



CCBP2 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。